令和５年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。
このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎　教育及び保育の配慮

・できたかできないかといった結果だけでなく、子どもが関心を持っているかどうか、やろうとする気持ちや過程を大切にし、保育士間で情報を共有しながら保育ができた。場面によっては時間を要し、行動に余裕がなくなることもあり、時間配分の工夫が必要だと感じたが、個々の成長や気持ちに合わせた対応ができたことは良かった。
・食事における好き嫌いは、「食べたくない」「〇〇なら食べられる」といった気持ちも安心して出せるような声掛けをし、一口食べたことが自信につながったり、様々な味に気づくきっかけになったりしていた。食べなくてはいけないといった負の気持ちを持たずに食事ができていた。
・保育士の言葉や仕草、態度で子どもの反応が変わり、発達にも影響するため保育士自身の行動は気をつけるよう意識した。

◎　環境を通して行う保育

・子どもが興味を持ったことを楽しめるような保育を心がけた。色の認識や好みがはっきりしてきたことで、製作では色画用紙の色を選ぶことから始めたり、使いたい色を自由に選んだり、のびのびと表現できるようにした。
・子どもの発達に合わせた素材や玩具を準備し、遊びが豊かになるような援助を心がけた。特に素材選びでは、慣れない感触に慎重になる子もいたが玩具の提供の仕方を工夫したり、遊び方を知らせたりすることで興味を示し、主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。
・散歩に行く機会をもう少し作りたかった。園庭や駐車場で季節の花や虫、水たまりの様子から季節にふれたり、感じられるような言葉かけを意識した。
・保育室の環境は、子どもの遊んでいる様子や発達段階に合わせて、保育士間で話し合いながら変更してきた。さらに遊び込める環境設定等、工夫していきたい。

◎　職員の資質向上

・研修を受けたことで、再度ガイドラインの見直しをしていくことが大切だと感じた。
・職員の研修報告を受け、さらなる知識の習得や技能の向上に努めていかなければいけないと感じた。
・子どもへの言葉かけや関わり方について、チェックリストにより振り返り、反省する機会を持ち、日々の保育の中でも言葉や意識の変換等、考えながら接するようにした。

◎　保護者に対する支援

・送迎時や連絡帳で子どもの様子を伝え、家庭での様子や悩みを聞きながら共感したり、アドバイスしたりすることを心がけた。
・口数の少ない保護者に対して、子育ての悩みや心配事、家庭の事情など安心して話せる存在になれるように努めていきたい。
・登園時に泣いたり、ぐずったりする姿を心配そうに後ろ髪引かれる気持ちで仕事に向かう保護者に対し、その子なりの気持ちの切り替え方や、登園してからの姿を伝え、少しでも安心して仕事ができるような関わりを心がけた。
・うさちゃん広場では来園された保護者の方が安心できるように、積極的に声をかけ普段の様子や子育ての悩みを聞くようにした。